

小瀬田の四季 令和5年7月15日(土)

小瀬田 生き物調査をしました。

夏の始まりを知らせるニイニゼミが鳴き、足元にはセミの抜け出た小さな穴が無数にあいていました。

ニイニゼミの幼虫は、泥を被ったまま地上に出てくるのを知っていましたか？
泥のコーティングがされた抜け殻は、丈夫で小ぶりでかわいいです。



前回の小瀬田から1ヶ月あまりでグーンと成長したアイガモ。
自然農法をしている小瀬田の田んぼでは、カモが美味しいお米を作るお手伝いをしています。

田んぼの害虫を食べ元気いっぱい走り回っていました。
元気があり過ぎて、本日は全部で10匹脱走。



『外には天敵も多く、命を助けたということだよ』と、管理者の桑原さんが話していました。

生き物調査 小瀬田の田んぼにどんな生き物が住んでいるのかワクワクしながらスタート

①採集

網とバケツをもって、まずは田んぼの泥水を採集。
網を使って真水で濾して、生き物を見つけやすくなりました。



②観察～仕分け

採集したものをトレイに入れると、最初は大物だけが目には入り、
おたまじゃくいた！なんだこれ？と大騒ぎ。
その後、良く観察してみると、小さな生き物がまだまだたくさん蠢
いていて、夢中になって観察、生き物を仕分けしていきました。



③観察～同定

生き物の特徴を頼りに、図鑑をみて、名前と結びつける作業。
顕微鏡でじっくり観察しさらに特徴をつかんだり、最終的には講師の向井
康治さんに手伝ってもらいました。
探していく中で、ツブゲンゴロウのつぶらな瞳に魅了されたり、そっくり
な赤ちゃんザリガニとエビの見分け方を知り、コガムシの幼虫と成虫が結
びつかないくらい似ていないことを知りました。

オタマジャクシ、コオイムシ、ミズカマキリ、
サカマキガイ、マツモムシ、カイミジンコ、ヤゴなど

④観察～記録

1人ずつどんな生き物を見つけたかを記録を残しました。
自然の力を借りて、有機農業を行っている小瀬田。だからこそ、水の中にもこ
んなに沢山の生き物が住んでいるのだと思いました。
毎月、小瀬田に来ていても、なかなか水の中までのぞくことがないので、新鮮
で貴重な時間となりました。



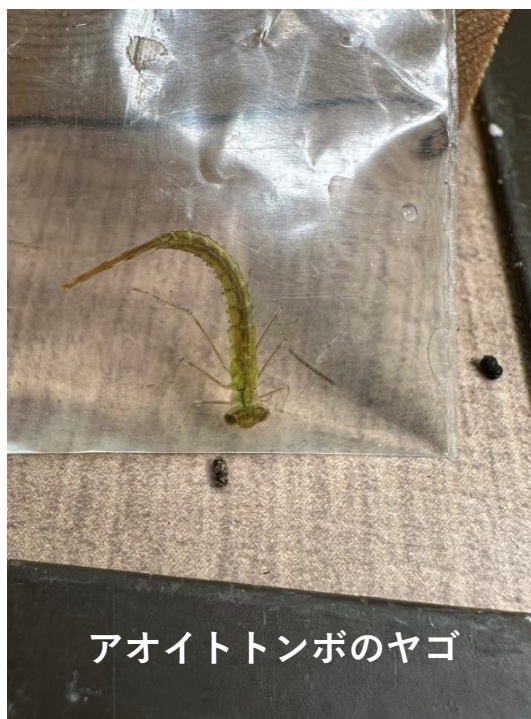
生き物調査の合間のランチタイム！

小瀬田の水で冷やした小川町産のスイカや、家庭菜園で作った
きゅうりとミニトマトをみんなで美味しくいただきました。





ミズカマキリ



アオイトトンボのヤゴ



コホイムシ



シオカラトンボ系のヤゴ



アメリカザリガニ
の赤ちゃん



コガムシの幼虫